

# シカの侵入を防ぐ新型フレームの開発(研究期間H25~27年)

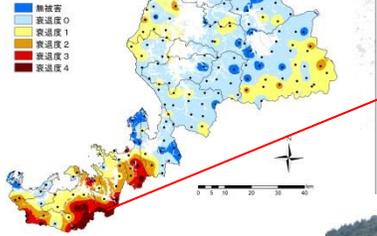
## 現状

森林内の下層植生の衰退

植生回復対策

## 課題

下層植生衰退度



風衝地やカヤ場跡地の裸地化と土壌流出

- 嶺南では、シカ生息密度が高い状態が継続
- 食害による下層植生被害は、嶺南の県境付近に激害地が存在。嶺北でも、奥越地域の県境付近や丹南の一部に植生衰退の初期段階の林分が存在。
- 嶺南の一部で裸地化に伴う土壌流出被害が発生



ネット柵によりシカの侵入を阻止



シカ忌避植物による緑化



積雪による支柱の破損



- 斜面傾斜の緩急や積雪量により、使用できる場所が限られる。
- 効果を持続させるには、維持管理が必要

- 忌避植物の生育に適した環境は限られている。
- 広範囲に渡る被害地の植生を早期に回復させ、裸地化の進行を防ぐには、**新しいシカの侵入防止対策**が必要

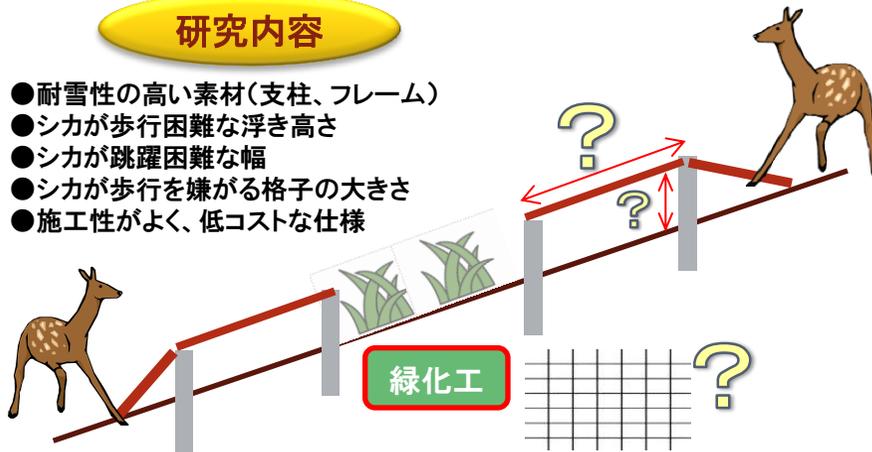
## 解決策

耐雪性の高い新型フレームでシカをシャットアウト!!!

垂直方向ではなく、**水平方向**の構造物でシカの歩行および跳躍を阻止

## 研究内容

- 耐雪性の高い素材(支柱、フレーム)
- シカが歩行困難な浮き高さ
- シカが跳躍困難な幅
- シカが歩行を嫌がる格子の大きさ
- 施工性がよく、低コストな仕様



## スケジュール

H24	予備試験；障害物の素材の選定
H25	フレームの高さ、格子の大きさの決定、耐雪性試験
H26	フレームの幅、全体の仕様の決定、現地実証試験（設置）
H27	現地実証試験（検証）、資材の低コスト化の検討、製品の完成